

トルコ中銀、追加利上げを見送る

ポイント① 予想外の利上げ見送り

トルコ中央銀行は7月24日の金融政策決定会合で、政策金利の変更を見送りました。金融市場では、トルコ・リラの下落やインフレ懸念に対応するため、6月7日の利上げに続いて1%程度政策金利を引き上げるのではないかという見方が大勢であった中で、今回の利上げの見送りは予想外と言えます。6月24日の大統領選および総選挙のダブル選挙で勝利して強権を握ったエルドアン大統領が、景気悪化を懸念して早期の利下げを求める姿勢を示してきたことに対して、トルコ中央銀行も大統領の意向を無視できなかつたようです。

ポイント② 株価、トルコ・リラは下落

トルコ・リラとトルコの株価指数は、独裁色を強めるエルドアン大統領に対する不安感などから、今年4月頃から大きく下落しました。6月24日の選挙後には一旦反発したものの、7月上旬に経済政策の要である財務相にエルドアン大統領の娘婿をエネルギー・天然資源相から横滑りさせる閣僚人事が行なわれたことで市場での信頼が低下し、トルコ・リラ、株価とも再度急落しました。

今回の利上げ見送りは、トルコ中央銀行に対する市場の信頼を損ない、7月24日にはトルコ・リラは米ドルに対して約3%下落し、トルコ株式の指標であるイスタンブール100種株価指数は、前日比3%以上の下落となりました。

ポイント③ インフレ率高騰、経常収支悪化への対応

トルコ・リラはこれまでの大幅な下落により、割安感が出てきたと見られます。ただ、通貨下落によるインフレ率の高騰には注意が必要です。6月には消費者物価指数は前年同月比15%以上、生産者物価指数は同23%以上の大幅な上昇となっています。インフレ率の高騰が続けば、トルコ・リラへの信頼がさらに崩れ、通貨下落とインフレ率高騰のスパイラルが生じかねません。また、トルコ・リラが下落すると、米ドルなど外貨建ての債務を抱える金融機関や企業の債務返済負担も増します。

景気への配慮から利上げ見送りや利下げを行なうよりも、トルコ・リラへの信頼回復のため、まずは足元で赤字拡大傾向にある経常収支の改善を図ることが必要だと考えられます。

重要
イベント

7月31日	トルコ貿易収支 (6月)
8月1日	トルコ購買担当者景気指数、製造業 (7月)
8月3日	トルコ消費者物価指数 (7月)

図1：トルコの長短金利、政策金利

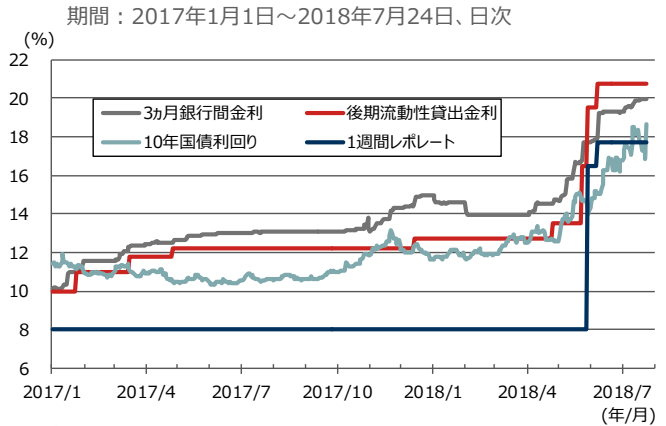


図2：トルコ・リラとトルコ株式指数

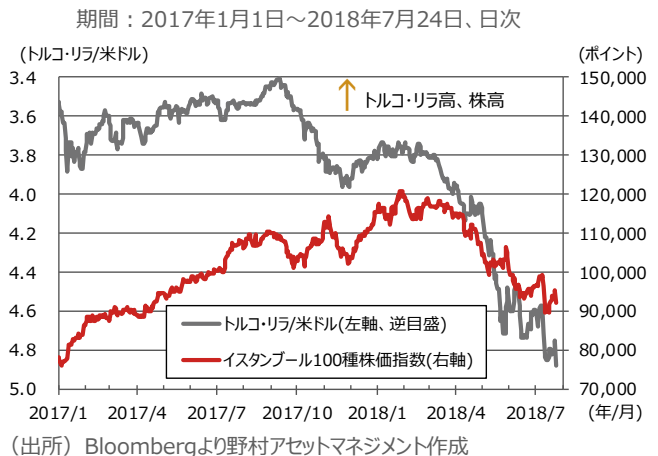
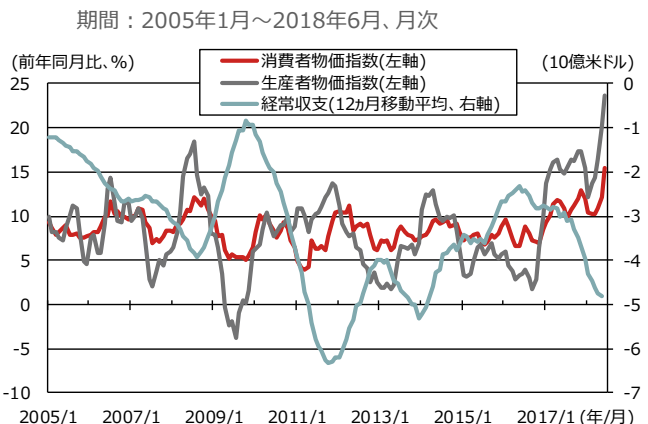


図3：トルコのインフレ率と経常収支



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。